

意見書

武庫川流域委員会

委員長 松本 誠殿

平成18年8月30日

委員 岡 昭夫

委員会運営への精力的なご尽力に対し敬意を表します。

私は6月から今現在、仕事が非常にタイトになり、委員会活動もままならない状態となっています。

8月に予定されていた2回の委員会も、欠席しなくてはならない事態になりました。

「提言書」を仕上げる段階での欠席、まことに申し訳ない気持ちでいっぱいです。

ふりかえれば武庫川流域委員会がスタートして、2年半になろうとしています。

私は今、「武庫川流域委員会」とは、一体何だったのだろうか？と思うときがあります。

全体的な委員会の雰囲気として、私にもかかりませんが委員みんなが、あまりにも自分の主義主張に走りすぎているのではないか・・・？この武庫川流域委員会は「ダム建設反対の委員会か？」と思うときもあります。

委員に応募された委員の中には「ダム建設反対のために委員になったのかな？」と思うときさえあります。

この「武庫川流域委員会」は、そんな委員会ではないと考えます。総合治水について討議するとはいえ、治水に変わりないと思います。

環境、環境と叫べば「人命か？環境か？」と異を唱える住民もいるのではないのでしょうか？。難しいかもしれませんが、両方が共存できるような対策を考えるのが、この流域委員会の使命ではないのでしょうか。

水のあるところは、人間の住むところとして最適なはずです。そこで如何に安全安心な生活を送ることができるか？それを考えるのがこの流域委員会なのではないのでしょうか。

勝手なことを・・・と言われるかもしれませんが、私の偽らざる心境です。

知事に提出予定の「提言書(案)」には、基本的に賛成いたします。

最近の異常気象が続く中、孫・曾孫の時代につけを残さないような提言になれば・・・と思います。

最後に、非常にきつい日程の委員会活動に委員長、委員の皆様方のご努力に感謝申し上げますとともに、私のご無礼をお詫びいたします。

以 上